



「日本の介護を守る」

福祉士会が集会で宣言

日本介護福祉士会は5月24日、都内で「介護の質を守るための集会」を開き、約400人が参加した。介護福祉士の資格取得方法の変更を予定通り2015年度からとすること、外国人技能実習制度に介護分野を加えないことを求める方針を宣言文を読む日本介護福祉士の役員

確認し、「日本の介護を守る」などとする宣言文を読み上げた。介護福祉士の資格取得方法は15年度から①実務経験3年以上に加えて新たな研修の修了を国家試験の受験要件とする②養成施設卒業生に国試を課す―予定だったが、政府は1年延期する法案を提出。法案は5月15日に衆議院を通過した。

また、今年1月、政府の産業競争力会議は外国人技能実習制度に介護分野を追加する方向で検討を開始。検討結果は、政府が6月に閣議決定する成長戦略に反映される。同会は介護の質を守る観点からいずれにも反対姿勢を示し、署名を集めている。また、4月以降、国会議員を訪ねて問題点

を説明。同日の集会には参議院議員の山口和之氏（みんなの党）、衆議院議員の高橋千鶴子氏（日本共産党）が応援に駆けつけた。資格取得方法変更の1年延期を導いた自民党からは、丹羽雄哉・元厚生大臣が「経済の好転による他業種への人材流出に強い危機感

を持っている。介護人材は量と質の両面からさらなる取り組みを進めなければならない」とするメッセージを寄せた。厚生労働省は6月4日に福祉人材確保対策検討会を開く予定で、同会からは石橋真二会長が委員として参加することになっている。